12 各種メディアにて紹介いただきました

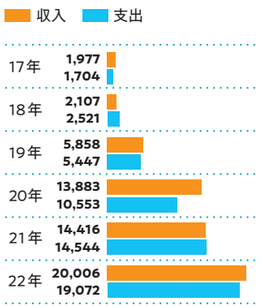
こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ インタビュー前編・後編
書評ラジオ「竹村りゑの木曜日のブックマーカー」
4 月 28 日・5 月 5 日放送：MRO 北陸放送

こちらから
お聞きいただけます

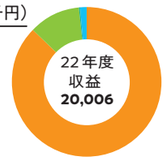
週刊新潮 6/30 号書評欄
「ベストセラー街道をゆく！」にて
『こども哲学ハンドブック』の書評が掲載

13 会計報告

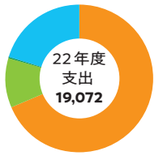
収支推移（千円）



収支内訳（千円）



- 哲学対話の場づくり事業（17,509）87.26%
- 哲学プラクティスに関する学びの場づくり事業（2,265）11.29%
- 哲学プラクティスに関する資料及び教材開発事業（45）0.22%
- 哲学プラクティスに関わる人のネットワーク形成事業（0）0%
- 他事業に附帯又は関連する事業（22）0.11%
- 会費収入（225）1.12%



- 哲学対話の場づくり事業（13,099）68.69%
- 哲学プラクティスに関する学びの場づくり事業（2,102）11.02%
- 哲学プラクティスに関する人のネットワーク形成事業（21）0.11%
- 哲学プラクティスに関する資料及び教材開発事業（3）0.02%
- 他事業に附帯又は関連する事業（18）0.09%
- 管理部門（3,826）20.06%

代表メッセージ

代表理事　角田 將太郎

1995 年生まれ。千葉県出身。県立船橋高校、東京大学教養学部卒業、東京大学大学院総合文化研究科修士課程在籍。哲学対話の実践と研究を往復しながら、互いに配慮し合いながら共に考える場をつくる方法について探究している。学校や企業、美術館や自治体など様々な場所で哲学対話のファシリテーターの経験がある。

2022 年度はこども哲学ファシリテーター養成講座＜実践編＞の新規開講など、ファシリテーターの育成や支援に重点的に取り組みました。また、こども家庭庁による「こどもや若者の声を聴くための仕組み作り」のための調査研究事業への協力など、こども哲学が大切にする「みんなが自由に考え、話せる場づくり」という側面に強く光が当たった１年だったように思います。2023年4月のこども基本法の施行に伴い、この光は一層強くなっていくでしょう。こども哲学に対して高まる期待に応えるためにも、2023年度は内部での研修や採用にも力を入れていきます。今後も引き続きアーダコーダの活動への応援をよろしくお願いします！

団体概要

正式名称　特定非営利活動法人
英 語 名　こども哲学・おとな哲学 アーダコーダ
Philosophical Practice ardacoda
所 在 地　〒251-0038 神奈川県藤沢市鵠沼松が岡4丁目6番18号2F
代表理事　角田 將太郎
設　　立　2014年6月

特定非営利活動法人 こども哲学・おとな哲学 アーダコーダは、哲学対話を社会の中で実践的に活用するためのスキルやプログラムを提供するNPO法人です。アーダコーダの哲学対話は、幼稚園に通うこどもたちから年配の方まで対象年齢を問いません。毎日のくらしの中にある疑問や不思議のタネについて、あーだこーだと考えを交換し、お互いが時間をかけて考えを深めることができる時間を提供します。

賛助会員募集

アーダコーダでは、小さな活動を積み重ねていくために、ご支援をお願いしています。会員特典として、ご希望があれば、アーダコーダ facebookページにて、賛助会員が携わる「哲学対話」に関するイベント情報を掲載いたします。入会方法など詳しくはこちらをご覧ください。

http://ardacoda.com/donation/

特定非営利活動法人
こども哲学おとな哲学 アーダコーダ
MAIL info@ardacoda.com
WEB http://ardacoda.com

ANNUAL REPORT 2022

2022年度
年次報告書

こども哲学　おとな哲学
アーダコーダ

哲学対話、こども哲学、哲学カフェの場をつくる

1 学校での「哲学対話」に力を入れて取り組みました

小学校、中学校、高校などで「哲学対話」を実施しました。数年にわたる関わりも増え、新たな挑戦も生まれています。特に、2020 年度より授業を行なっている藤沢翔陵高等学校では、2022 年度はアーダコーダ監修の総合的な探究の学習のカリキュラム（年間 50 コマ）を実施しました。また、教員研修や、学校説明会での保護者との哲学対話など、授業に限らず様々な形で学校生活における「哲学対話」の機会をつくりました。

横須賀学院小学校

藤沢翔陵高等学校

成田国際高等学校

2022年度に実施した学校

計 11 校

- 横須賀学院小学校（神奈川・私立）
- 武蔵野大学高等学校（東京・私立）
- 中津北高等学校（大分・県立）
- 藤沢翔陵高等学校（神奈川・私立）
- 坂出第一高等学校（香川・私立）
- 成田国際高等学校（千葉・県立）
- 山手学院中学校・高等学校（神奈川・私立）
- 足利清風高等学校（栃木・県立）
- 川崎市立高津中学校（神奈川・市立）
- 自由学園初等部（東京・私立）
- 桂坂小学校（京都・市立）

2 こども家庭庁設立準備室が進める「こどもや若者の声を聴くための仕組み作り」に協力しました

こども家庭庁設立準備室が実施した<こども政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究>に協力。モデル事業で対面 / オンライン / チャットの3つの形式で進行役を務めました。この調査研究結果をふまえ、こども家庭庁では、2023 年より「こども若者★いけんぷらす」という、広くこども・若者の意見をきく取り組みがはじまることになりました。

3 企業メディアのコンテンツ制作協力やワークショップ企画進行等を行いました

株式会社セイバン
探究子育てまなびメディア Soda!Soda! 制作協力
みんなで探究「音と音楽について」「きまりの国ときままの国」「生き物について」の企画、台本制作、進行等

株式会社キッズスター
地域体験ガイドブック「ジモトガイド」制作ワークショップ企画進行

4 多様なシーンで、哲学対話、こども哲学、哲学カフェを実施しました

「李禹煥　で　哲学対話」
「国立新美術館開館15周年記念 李禹煥」展関連プログラムとして実施。
対象：小学４年生～大人

セミナー「対話の効能〈わたし〉と〈あなた〉のあわい」<「哲学対話」体験>
（公財）せたがや文化財団 生活工房主催。対象：大人

【記録動画公開】
対話の効能〈わたし〉と〈あなた〉のあわい

5 ビジネス哲学対話

三井住友トラスト・システム＆サービス株式会社にて、「社員のコミュニケーション能力、思考力の向上」、「社内で対話的なコミュニティを醸成する」ことを目的に６ヶ月間にわたりビジネス哲学対話研修を実施いたしました。

受講者の声

- 仕事を進める上でも、関係者のコミットを高めたい場合や多様な視点を洗い出す上で哲学対話が役立ちそう。
- 「考える」ことを意識することで、日常でも仕事の場でも疑問が生まれやすくなり、それらの疑問についても考えようとする姿勢が身に付く。

哲学プラクティスに関する学びの場をつくる

6 アーダコーダ学生インターンの活動が本格的に始まりました

2022 年秋より「アーダコーダ学生インターン」がスタート。
高校生～大学院生が集まり、「10 代のための哲学対話部」運営や、「競技型哲学対話の大会」企画運営等に取り組んでいます。

インターン生の声

- 哲学対話の企画を、仲間と議論したり、広報文を考えたり、対話に至るまでの過程も大事だと気がつけました。
- イベント企画を主軸に活動し、イベントとして楽しいかを考慮に入れる必要があると気づきました。

7 「こども哲学ファシリテーター養成講座（初級編）」を継続開講しています

内容を最新のものに随時更新しつつ、今年度もオンラインにて４回実施いたしました。

2022年度 計 4 回開催　修了生年間（のべ人数） 68 人ほど

受講生の声

- 全てが印象的だった。
- 実際にファシリテーションをしてみると、参加者の発言を勝手に改変することなく大切にしつつ、全体を俯瞰し、対話を促していくのがとても難しいと実感しました。
- 自分自身のファシリテートを見ていただいたのはとても嬉しかったです！気づきの多い時間でした。

8 「こども哲学ファシリテーター養成講座 <地域／オンラインで場を開く実践編>」を、新規開講いたしました

受講生が実際に、こども哲学を企画・実施（進行）・振り返りをすることを通し「こども哲学とはどういうものなのか」「自分らしいファシリテーションとは何か」を探究していく、少人数制の講座を新規開講。会場／オンラインの２コースそれぞれ満席。のべ８名に受講いただきました。

受講生の声

自分の企画したこども哲学を実践、フィードバックしてもらえる場は、とても貴重な体験でした。企画に集中できる環境や、フォローし合える環境もありがたかったです。講座内容はもちろん、質疑応答や実践例もたくさん聞けるので、実際のこども哲学の場で活用できる学びを得ることが出来ると思います。

9 教員研修を多数実施しました

ここ数年増えている、教員研修のご依頼。各校に合わせ、オーダーメイドで内容を提案、実施しています。

参加者の声

- ファシリテーターの役割が実感できたと共に、ポイントの説明があったためわかりやすかった。
- クエスチョンウェブなど新たな手法を知ることができたので、色々と工夫してみたい。

哲学プラクティスに関する人のネットワークをつくる

10 ICPIC Tokyoにてシンポジウムを実施

2022 年 8 月に東京にて開催された、子どもの哲学国際学会 The International Council of Philosophical Inquiry with Children：ICPICにて、シンポジウムを実施しました。

シンポジウム
「なぜ、学校に対話が必要なのか？ 外部からの学校での対話活動の促し」

登壇者
- 白井一郎（一般社団法人子どもの成長と環境を考える会）
- 苫野一徳（熊本大学）
- 角田将太郎（NPO 法人こども哲学・おとな哲学アーダコーダ）

司会
- 井尻貴子（NPO 法人こども哲学・おとな哲学アーダコーダ）
- 河野哲也（立教大学）

哲学プラクティスに関する資料および教材をつくる

11 『こどもたちが考え、話し合うための絵本ガイドブック』出版

子ども図書館司書の皆さんによる絵本のあらすじ紹介と、多様な執筆陣による哲学かいせつで構成されています。

『こどもたちが考え、話し合うための絵本ガイドブック』
河野哲也監修、子ども図書館司書＋NPO 法人アーダコーダ編集
2023 年 3 月発行　アルパカ